

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成30年度）

— 研究課題 2 小学校 —

|             |   |            |     |
|-------------|---|------------|-----|
| 都道府県・指定都市番号 | 5 | 都道府県・指定都市名 | 秋田県 |
|-------------|---|------------|-----|

（公立）・私立・国立（○で囲む）

1 研究指定校の概要

|             |   |    |    |    |    |    |      |  |
|-------------|---|----|----|----|----|----|------|--|
| 学 校 名       | 秋田県 仙北市立 生保内小学校   |    |    |    |    |    | 校長氏名 | 加藤 勝則                                  |
| 所 在 地       | 〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生保内字武蔵野 111<br>電話 0187-43-0243 FAX0187-43-0247 E-mail obosho2@sc.city.semboku.akita.jp |    |    |    |    |    |      |  |
| (H30.4.1見込) | 1年  | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 計    | (H30.4.1見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む)<br>教員数18名 |
| 学 級 数       | 32  | 22 | 33 | 36 | 32 | 47 | 202  |  |
| 児 童 数       | 1   | 1  | 1  | 1  | 1  | 2  | 7    |  |
| 特記事項        | 特別支援学級（2）… 知的（1） 情緒（1）  |    |    |    |    |    |      |  |

2 研究主題等

|            |   |         |   |
|------------|---|---------|---|
| 教科等名       | 生活  | 教科課題番号等 | 2 |
| 学校における研究主題 | 思いや願いをもって「ひと・もの・こと」と関わり、<br>気付きの質を高め表現する子どもの育成<br>～地域とつながる生活科の授業を通して～ |         |   |

3 平成29年度の成果と課題

- 生活科を担当する低学年部だけでなく、中・高学年部では総合的な学習の時間に取り組むことで、学校全体での体制が整い、系統性が図られた指導の充実とともに、教育委員会・教育研究会等のバックアップを受け、全校を挙げて研究に取り組むことができた。
- 児童の思いや願いをより大切にしたり、児童の力を信じて極力最後まで見守ったりすることにより、児童がより主体的に学習する姿が見られるようになった。
- 体験や活動を通して得られた気付き等を繰り返し表現する学習過程を大切に、文章や絵など形に表れないものについても、児童との対話を積み重ねることを通して、児童の願いや思い、気付きの変容等を捉えようとする教師側の意識が高まってきた。
- 繰り返し地域の人々と関わることで、自分の住んでいる町のよさに気付き、身近な地域への愛着がより高まるとともに、商店主を中心に地域の方の学校教育への理解が深まった。
- 生活科で目指す資質・能力との関連を表すカリキュラムデザインの作成を通して、他教科等との関連を図り、教科等の特性に合わせた合科的・関連的な指導が展開されるようになった。
- 各支援団体を応援団として組織化したことにより、児童の多様な思いや願いに応えられるようになり、より主体的な学習を展開することができた。また、活動時の記録が児童の学習をより深めるきっかけにもなった。さらに、単なるボランティアとしてではなく、活動を通して児童とともに学びたいという声が聞かれ、学校と各支援団体とのつながりがより深まった。
- 園小連携では、授業参観や実践、カリキュラムづくり等の研修を通じた教員同士の交流も行い、園児や児童の姿を互いに共有し合う形で、個々の園児や児童のみならず集団としての理解も図られた。このような連携を通して、児童の学びがより充実するための手立てを講じたり、学習環境づくりに反映させたりすることができた。
- 11月の授業公開では、参観者から、就学前の姿を基に、園と連携した児童の姿を大切にされた授業づくり、日頃の様々な積み重ね、児童と教師との関係のよさ等について評価があった。
- 年度末の学校評価では、地域の特色や人材を生かした取組について、「十分」「まずまず」と回答した保護者が約96%にも達し、「十分」については昨年度を16%も上回った。

- 1時間の授業の中で、児童の思いや願い、気付きを適切に、かつ可能な限り一つでも多く捉えるための教師側の手立て（言葉がけ・見取り等）は、どうあればよいのかを実践を通して積み重ねていく。また、その手立てが妥当であるか、客観的なものかどうかとも検証する必要もある。
- 発達の段階に合った相手や目的に応じた表現力（特に、改まった場で話したり、活動や観察を記録したり、振り返り等を書いたりすること）や、様々な事象や対象を関連付けたり、気付きや表現したことを基にして考えたりするといった思考力が十分とは言えず、他教科や教育活動全体を通して、育成していかなければいけない。
- 「学習マップ」については、一層の記録の積み重ねとともに、今年度はそれらを積極的に活用したり、更新したりすることで、より実際に使えるものにしていかなければいけない。
- 応援団ともよりいっそう連携を図り、児童の思いや願いを生かした活動・体験の充実を目指す。また、昨年度の応援団実行委員会での協議や教員へのアンケート等の振り返りを基に、活動・体験時のねらいや児童との関わり方等を確認したり、さらに学校として育てたい児童の姿の共通理解を図るための場を設定したりする等、改善を図っていく。
- 園小連携については、昨年度の取組をベースに、スタートカリキュラム実施期間中に園の教員による参観を通じた情報交換の場を設定したり、園の研修に小学校教員が参加したりするなど、新たな取組を行うとともに、担当する教員だけでなく、双方の教職員全体がより参画していくことができるよう、体制の見直しも図っていくことが必要である。

#### 4 平成30年度の研究計画

##### (1) 本年度の研究の重点等

- ・新学習指導要領において示された資質・能力の育成に向け、自校の実態を踏まえ、体験と表現の過程の繰り返しを重視した学習活動をより充実させ、気付きの質を高める授業改善に取り組む。
- ・スタートカリキュラムの見直しとその実践を基に、他教科等と関連させた合科的な単元を構成した実践など、幼児教育とのつながりを意識した取組をしていく。そのために、園小連携を通して、幼児期の体験が生活科等の小学校の学習の中でどうつながっていくのか、更に深く捉えていく。
- ・2年間の生活科の学習が、3年生以降の総合的な学習の時間を中心に他教科等の学習にどうつながっていくかなどをより明確にし、中学年との接続を意識した学習活動を展開していく。
- ・見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの学習活動を取り入れ、思考ツールの活用などを通して、書く、話す、聞くなど言葉によって思考する場を適切に設定するなど、思考力の育成をさらに図る実践を行っていく。
- ・新学習指導要領に基づき、全体計画や年間指導計画の見直しなどをはじめ、それに合わせた単元の目標や評価規準の設定の仕方等を含め、指導案の形式について見直しを進めていく。

##### (2) 研究計画

| 実施時期 | 研究内容, 研究方法, 成果の公開等   | 期待される成果等   |
|------|--|--|
| 前期   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新スタートカリキュラムによる実践と園の教員による参観等を通じた検証</li> <li>○ 児童の実態把握, 育成を目指す資質・能力の共通理解</li> <li>○ 前年度の成果と課題を踏まえた取組の確認及び学習指導要領に基づいた研究内容と諸計画の策定と見直し <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画 ・全体計画 ・年間指導計画 等</li> <li>*生活科を中心としたカリキュラム・マネジメントの充実</li> </ul> </li> <li>○ サポート団体との共通理解の場の設定と実践</li> <li>○ 園小連携の共通理解の場の設定と実践</li> <li>○ 思考力を高めるための思考ツール等の理論研修</li> <li>○ 気付きの質を高め, 表現する授業の実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の思いや願いを生かした指導計画の立案</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究内容の重点化・焦点化等が図られるとともに、他教科等と関連させた指導の充実にもつながる。</li> <li>○ サポート団体や園小との連携の体制・内容の充実により、学校内外の資源の活用や主体的な活動の充実が図られる。</li> <li>○ 発達段階や実態を踏まえた指導の工夫を通して、指導内容の充実が図られる。</li> </ul> |

|      |   |   |
|------|---|---|
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力及び表現力の向上とともに気付きの質を高めるための具体的な手立ての工夫</li> <li>○ 他教科等の関連を図った指導の充実</li> <li>○ 校内授業研究会（6月・7月）の実施</li> <li>○ 児童等の変容の把握</li> <li>＊アンケートの実施とその分析等</li> </ul>   |   |
| 中・後期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前期の振り返りを基に、気付きの質を高め、表現する授業の見直しと実践</li> <li>○ 公開研究会（第25回東北小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会も兼ねる）の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の成果の発信</li> <li>・他校の取組等の収集</li> <li>・課題の再確認</li> </ul> </li> <li>○ 児童、保護者、地域等の変容の把握</li> <li>＊アンケートの実施とその分析等</li> <li>○ 2年間の取組の検証並びに研究協議での成果の発表</li> <li>○ 研究のまとめの作成と次年度以降の研究の在り方の確認</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業公開や研究協議等を通して、本校の取組等への意見を集約し、成果や課題の整理することで、研究内容を多角的に検証することができる。</li> <li>○ 明確になった成果と課題を整理し、全体的な総括と発信を行うことで、地域や家庭等とのより一層の協力や理解、連携等が図られ、研究主題にある「地域とつながる生活科の授業」が具現化される。</li> </ul> |

## 5 研究のまとめの見直し

### (1) 期待される成果

- ・幼児期の終わりまでに育てたい姿と関連させたり、児童の思いや願いを生かした学習を展開したりすることを通して、主体的に学びを深めたり、生き生きと自己表現したりするなど、学びに対する達成感や充実感を味わう姿が実現される。
- ・児童が相手意識や目的意識をもって、気付いたことなどを他に分かりやすく表現し合うなどの対話的な学習が展開される。
- ・思考力や表現力の高まりなどを通して、他教科等の指導の充実または中学年以降の各教科等の学習へ円滑な接続が図られる。
- ・児童が自立し生活をより豊かにしたり、地域のよさを改めて知り、地域を大切にしたりしようとする児童の意識の向上が図られる。

### (2) 検証方法等

- ・校内研究会等の授業公開による検証
- ・発達の段階に即した自己評価や相互評価の工夫と評価を基にした授業改善への反映
- ・活動状況の記録や児童の振り返り等の工夫とその活用の仕方
- ・児童や教師、保護者、地域を対象としたアンケートの実施とその分析
- ・他教科等における児童の学習への波及効果の把握とその分析
- ・保護者、地域の人材、サポート団体、認定こども園等などの教育資源の活用と持続可能な協力体制づくり